

笑 雲

しょう

うん

第89号

発行：令和3年1月1日



社会福祉法人 豊悠福祉会

祥雲館

人生の学校

〒563-0101

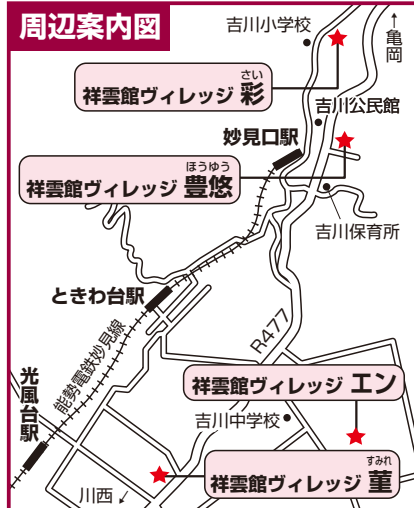
大阪府豊能郡豊能町吉川187-1

TEL：072-733-2301(代表)

FAX：072-733-2303

番号をお間違いないようご注意ください

周辺案内図



「豊能町立 たんぽぽの家」 運営のお知らせ

当法人は、本年4月より「豊能町立たんぽぽの家（生活介護・就労継続支援B型）」（ときわ台1丁目所在）の指定管理者に選任され、同事業所を運営させていただきますこととなりました。

これまで「たんぽぽの家」

が培われてきた、保護者の方々及び地域の皆様との関係性を大切に継承しつつ、適正かつ効率的な運営を図るとともに、当法人が現在運営しております障がい者支援事業所「ひまわり」（生活介護・就労継続支援B型）での実績を加味し、ご利用いただく方個々の特性に着目した支援を、法人一体として実践してまいります。

家「指定管理を契機として、3～5年先、5～10年先の福祉ビジョンを形成し、豊能町において障がい者支援事業を軸とした地域の活性化に寄与し、地域との協働・協創による、いわゆる『共生社会』を具体化していく所存です。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

また、「ひまわり」との連携はもちろんのこと、昨年9月、東ときわ台に開設しました「すみぞら」（障がい者グループホーム）、「ほたるぼし」（児童発達支援事業）とも有機的に連携し、豊能町での更なる障がい者支援の膨らみ、拡がりを構築してまいります。

このたびの「たんぽぽの



祥雲館ヴィレッジ

新しい看板が設置されました

豊悠福祉会の各拠点の名称が「祥雲館ヴィレッジ」になり1年が経ち、豊悠（本館・別館）と彩（新館）の入り口に、新しい看板を設置しました。法人イメージカラーであるバーガンディの看板です。

祥雲館ヴィレッジ「豊悠」



祥雲館ヴィレッジ「彩」



新年明けましておめでとうございます。昨年はコロナ禍のため面会の中止や様々な方面において感染防止対策を講じてまいりました。まだ予断を許さない状況ですが、水際で食い止められておりますのは、ご利用者様、ご家族や地域の皆様、各関係者等、現場職員を支えてくださる多くの方々のご協力とご理解のおかげと心より感謝申し上げます。

令和3年は、社会生活や経済活動等、新型コロナウイルスと折り合いをつけ、アフターコロナ、ウィズコロナを踏まえた、新生活様式へのシフトが求められます。

われわれ福祉に携わる者にとりましては、コロナ禍をにらみつつ、アナログとデジタルの葛藤、それを超

えるチャレンジについて検討していかなければなりません。

福祉の現場では、介護の本質であるヒューマニティに関わる面ではFace to Faceというアナログな活動を続けていく一方、利便性の追求という面ではデジタル化を進め、職員の負担軽減に取組まなくてはなりません。その意味ではアナログとデジタルは、オア（or）ではなくアンド（and）の関係だと考えています。

福祉の現場だけではなく、地域の皆様との在り方も、Face to Faceで向き合って参りました従来の関係性と、安全性と合理性を高めるデジタルなつながりをも模索しなければなりません。

また、デジタル化は、これまでなかった新しい繋がりを見出し、グローバルな課題へ向き合うことが可能

になると考えます。福祉事業に置きかえますと、SDG's(国連で2015年に採択された持続可能な開発目標)を視野に入れ、これまでの当たり前を疑い、例えば、電気等エネルギーの調達、飲食材料の選定と消費、災害時の拠点活動、雇用等、次世代ニーズと環境へ配慮してまいります。「環境」「社会」「経済」の3つの側面を切り離さず、常に調和を念頭に置いた事業へと展開し、地域貢献すべきと心しております。

祥雲館は、「共感・つながり・支え合い」からアフターコロナ、ウィズコロナを踏まえた次の百年に向けて進化する、地域と法人との新たな相互扶助の構築を目指してまいります。

本年もご指導ご協力よろしくお願い申し上げます。

令和3年1月1日

社会福祉法人豊悠福祉会祥雲館

総合施設長 井口 仁

コロナに負けるな！ 新しい挑戦

コロナ感染拡大を受けて、ウイズコロナに対応するため、新しい挑戦をしています。

挑戦① オンラインの活用

会議室に関係者が集まり開催していた会議を「Zoom」でのオンライン会議の導入、職員全員がホールに集まって開催していた方針連絡会をYouTube配信で開催しました。

挑戦② YouTubeプロジェクト発足

豊能町で暮らす高齢者からのメッセージを伝える動画を配信するプロジェクトが始動しました。来春には公開予定。

挑戦③ 「祥雲館町おこしプラザ」のハイブリッド化

新型コロナウイルス感染拡大で、地域の人々が集う場を作るのが困難になり、新しい形の祥雲館町おこしプラザ（オンライン×リアル）を構想中です。

祥雲館では、今までどおり、利用者や地域の皆様、職員同士の対面でのつながりも大切にしながら、新しい形の交流の場づくりを始めています。



初めてのオンライン会議の様子

TOPICS

★祥雲館ヴィレッジ・エン

ご近所の方から思いがけないプレゼント！ 秋明菊をいただきました。花言葉は「薄れゆく愛・淡い思い」。ロマンチックな秋を感じました。



★ひまわり～毎日の散歩

暑くなったり寒くなったり。三寒四温、過ごしやすい季節になりました。ひまわりでの活動で毎日散歩をしています。今日は花折街道を歩きました。



★ショートステイ

とてもキレイに細かくぬり絵をされていたので、写真を撮らせてもらいました。見本そっくりの出来映えに、職員や他の利用者様もビックリしました。



★第41回笑雲café

コロナ禍で思ったこととお話しました。久々に地域の方のお顔をみるとうれしくなり、会話が弾みました。



★ほたるぼし&やわみどり

10/31 ハロウィーンの日、放課後デイの子どもたちは、それぞれ思い思いの姿に変装して2階のおじいちゃん、おばあちゃんのところへ遊びにいきました。



TOPICSはホームページでも詳しくご覧いただけます。

祥雲館

検索

facebookはこちら⇒



祥雲館 facebook

検索

次号は、令和3年3月25日～31日配布予定です。

第2期モンゴル技能実習生を迎えて

ようこそ！ 豊能町へ

2020年12月、モンゴル人技能実習生3名が、祥雲館スタッフの仲間になりました。今年度はコロナウイルス感染症拡大の影響もあり、来日が延期となりましたが、11月に来日し1カ月の受入機関での研修を経て来られました。



左から ガナさん・オユナさん・ピンバさん

け、将来はモンゴルでも日本の介護を実践していきたいと話されています。

「ひまわり」～障がい者支援福祉サービス事業所（生活介護）～

コロナ禍の中、ひまわりでは、飛沫防止パネルの設置・手指消毒の徹底・換気・食事時間や席の変更など万全な対応でサービスを提供しています。また、地域イベントのほとんどが中止となり、施設外での活動も縮



小しています。私たちは、日常の支援で大切にしていることのひとつに「意志決定」ということがあります。やりたいこと、食べたいもの、欲しいものなど、利用者が自ら選択できる環境づくりをしています。

す。レクリエーションを企画するときなど、タブレットを使って、行きたい場所ややりたいことが表現できる環境を作って、それぞれの思いを伝えあいながら決めています。

コロナ禍で、利用者の思いを全て実現することは難しいかもしれませんが、一つでも多く実現できるように、サポートをしていきたいと思っています。

昨年は、祥雲館町おこしプラザの活動は、コロナの影響でほとんど中止となってしまう、地域との繋がりが薄れてしまったように思います。

町おこしプラザで何がしたいのか？ 私は、活動を通じて地域住民が互いに支え合える関係を作っていきたいと思っています。コロナ禍で地域活動は難しいですが、できることからチャレンジしていきたいと思います。

広報担当 涌本

編集後記